

末梢塞栓の予測に attenuated plaque の認識が必要である。attenuated plaque とは石灰化の強い板状エコーがないのに急激にエコーが減衰する病変のことである。Plaque 総量と slow flow の出現頻度には相関関係がある。Plaque 量の判断として positive remodeling や attenuation の角度の大きいもの、などがある。この所見があると slow flow や no reflow を起こしやすくなるため、distal protection device の使用を考慮すべきといわれるが、エビデンスは不十分である。slow flow や no reflow となった際には血栓吸引療法、シグマートやニトロプルシッドの冠注、昇圧による coronary flow の維持なども有用である。